



輝け！OKB516



470名+教職員46名

ご入学・ご進級おめでとうございます

校長 山本 邦彦

今年度、大久保小学校の一員となります山本と申します。大久保小学校の子供たちのために、精一杯取り組む所存でございます。どうぞ、よろしくお願いいたします。

お子さんのご入学、ご進級おめでとうございます。新1年生86名の仲間を迎え、全校児童470名、教職員46名で2024年度がスタートできることを大変うれしく思います。本校の学校教育目標は「やさしい心、夢と希望、明るく元気な大久保っ子」です。何事にも主体的に取り組むこと、仲間との協働や思いやりの心を大切にすること、自らが考えて行動することを柱に、全教職員が一丸となって取り組んでまいります。

さて、「夢と希望をもち、やさしい心一杯、明るく元気」な子供を育むために、私たち大人がどんなことを大切にすればよいのでしょうか。今、私が大切にしたいと考えていることを紹介します。

はじめの一步を踏み出す

どんな高い山に登るときでも、はじめの一步があります。一步を踏み出せば、次の二歩目、三歩目とつながっていきます。はじめの一步をためらったら、ずっと何もできません。できることから少しずつ、そしてその継続が、いつしか自信と力となり、自分で自分の心に火をつけることのできる子供へと成長していきます。私たちは、はじめの一步を踏み出す勇気の後押しをしています。

結果ではなく過程を重視して、ほめる（時にはしかる）ことが大切

「100点を取ったらほめる」「試合に勝ったほめる」という具合だと、95点では、ほめるに値しないことになります。「あと5点足りなかったね」という減点方式の考え方では、子供の自己肯定感につながりません。昨日よりも成長した自分、今日より明日は少し、意欲的に取り組めるなど、その過程を見て褒めることが大切です。他人（兄弟や同級生など）との比較は、劣等感を生み、進歩を感じにくいものです。学校でも、過程をほめる、振り返って次に生かすという指導に心がけていきます。

失敗することで物事の本質を見極めることができる

現代の子育て（学校教育も）では、できるだけ失敗させないように環境を整え、大人が事前に子供の失敗を予測し回避するように配慮することが当たり前になってきていると感じます。命に関わることに限っては、もちろん大人が守ってあげることが大切です。しかし、大人のサポートが行き届きすぎて、大人の言うとおりに行動してきた子供、失敗を経験しないで育った子供は、自分で考えて行動する力、失敗したときの対応力が身に付きません。子供が自分で考えてチャレンジしたこと（たとえ失敗しても）に対して、プラスに評価することで、次の意欲につながります。大人が余裕をもって受け入れ、失敗から学ぶ、次の方策を考えることが、たくましさを育むためには大切であると思います。

子供たちの成長を後押しするために学校と家庭でベクトルをそろえて取り組むことができたらいいいなと考えています。